



# 世界威物傳

## Vol.1a オリンピック

ブラジルで博物館が燃えてしまった。老朽化していたのに改修予算が無く、放置された結果だという。予算がなくなったのはリオ五輪で大金を使ったかららしい。「オリンピック貧乏」とでも言うしかない。そして大金かけて作った競技施設は維持費が不足し、まさに兵どもの夢のあと、雑草広場で処置なし状態。何やってんだブラジル！と叫ぶのは簡単だ。

明日は我が身が決定している。間違っても都知事になった色物小説作家が死に際に花を添えようと勝手に開催地立候補した結果だ。都民が請願して誘致したわけではなく、庶民にはとぼちりもいいところ。しかも作家は、開催地決定前に勝手に辞職してしまった。都民・国民の血税を浪費させておいて楽隠居とは素晴らしい。

ただ、いったん東京開催が決まってしまうと、表立って反対する勢力はいなくなってしまった。日本共産党さえオリンピックという「慶事」を批判できないでいる。大政翼賛オリンピック。

NHK などマスコミは「経済効果は〇兆円」などと目くらましに躍起だが、その金は都や国の収入ではない。まして都民・国民に還付されるものでもない。実態は大赤字確定なのだ。

ごく普通のプロスポーツリーグでも入場料収入だけでは経済的に成立しない。だからスポンサーを見つけて冠ゲームにしたり競技場の命名権まで売って凌いでいる。既存の競技場があってもそうなのだから、開催に合わせて巨大スタジアムやら競技ごとの体育館、選手村などを作れば事態はもう少し悲観的になる。箱モノの建設費だけですでにパンクする。加えて会期中の交通費、食費など運営費も半端な金額ではない。

仮に東京五輪が2年くらいロングランして

くれてチケット完売なら、あるいは大赤字は免れるかもしれない。残念なことにパラリンピックと合わせても会期は1ヶ月程度。全会場の全席を歌舞伎座の1階席と同じ金額にしても元を取るのとは不可能だろう。

さらに経済面でオリンピックがプロスポーツと違うところは入るべき金が入ってこないことだ。メディアに流される競技の映像・音声の著作権はすべてIOCにある。というか、オリンピックに関わるすべての権利をIOCが握っているため、全世界に流されるテレビの放送権料はIOCに入り、開催地にはまったく入ってこない。NHKがいくら努力してどんなに素晴らしい映像を作っても著作権はIOC、主催都市にもNHKにも金は入らない。みみっちいことに、番組製作に使う放送機材もIOCは各メーカーから無償貸与させてただで使っている。

つまり、リスクゼロ、投資ゼロで口だけ出してコンテンツを作らせ、売り上げはすべてかささう。ごく控え目にいってズルい、普通に言えば大泥棒だ。実はそれだけではなく、IOCは参加各団体や自治体から「手数料」名目でも金をせびっている。「手数料」の実態や金額は守秘義務契約を盾に不開示。

1回のオリンピックで放映権料総額がいくらになるのか、これも不開示。IOCは非営利団体のNPOなので開示する義務は無いらしい。ただ、日本がいくら払っているのかだけはわかる。リオが360億、平昌と今度の東京が660億（自国開催でも払う！）。全世界では数千億になるだろう。せめてリオの分がブラジルに入っていたら博物館は焼けなかったかも。スポーツを通して文化を燃やす！IOCは偉い！